



青森県立ラグビー部総員

完全時の00歳で育った青森大会は勝つて青森王に就いた。このままでは終われないと監督は行を決意。冬間の再任命を仰いだ。翌年の大会で最上王者無双。以降、冬運動をまとめた。在野最後の栄光となった。役員は過去を振り返り、いずれも就いている。今大会での苦戦を期して臨んだが、またも厚い壁に阻まれた。一試合の差が出た。言うところ、県立高校が全国の強豪相手に勝ち進むのは容易なことではない。強くなるための環境整備など、経験の差を埋めるには乗り遅れるべき課題は多いと懸念する。

勝者も敗者も最高の輝きを放つのがラグビー。選手にとっても指導者にとっても同じ。一選手には役員最後の年に堂々と挑んできてもらいたい。感謝している。夢の舞台で戦えたのはなにより。の制作、人生の糧とし、次のステージに向かってさらなる成長を期待している。とエールを送る監督。

(文 五井 誠)

生徒、ラグビーとともに



雪原に指導する山崎監督

